

第 30 回バイオマスタウン構想の公表

【新規公表：2 構想の概要】

北海道滝上町（たきのうえちょう）

豊かな自然環境に恵まれ、酪農・畜産・畑作を基幹産業とする滝上町では、農業と林業の連携による地域内での資源循環利用の取り組みを展開している。今後は、これまでの取組を継続するとともに、豊富に賦存する林地残材などの木質資源の活用を一層推進し、木質ペレットなどの燃料利用や、家畜敷料への利用を通じた農地への還元などを進め、地域循環型社会の形成を目指す。

秋田県北秋田市（きたあきたし）

林地残材・製材工場残材などの木質バイオマスの利活用と、耕畜連携した「土づくり」を進めることで農畜産物のブランド化に努め、地域産業の振興を図りながら「ひと」と「自然」の調和によるぬくもりのある交流都市を目指す。具体的には、家畜排せつ物・生ごみの堆肥化、木質バイオマスのペレット化・バイオエタノール燃料化、稲わら等の自給飼料の促進等の取り組みを進める。

【改訂公表：1 構想の概要】

旧立川町（バイオマスタウン構想公表済み）が旧余目町と合併

山形県庄内町（しょうないまち）

豊富に存在するバイオマスを有効に活用し、地域と一体となって、持続可能なエネルギーの自給自足と資源循環型社会を形成することにより、地域特性を活かした低炭素社会の実現を目指す。これまで取り組まれている廃食用油のリサイクル、生ごみ、畜ふん、もみ殻の利活用を進めるとともに、木質バイオマス、生ごみ、農業集落排水汚泥等のエネルギー利用など新たな利活用の検討を進める。